

# 全国協議会 ニュース

2025年1月1日発行 第389号

発行所：特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階  
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365  
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和  
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

## 新年のご挨拶



全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
会長代行  
洪谷 俊徳

新年明けましておめでとうございます。  
日頃、骨髄バンク事業に取り組まれている関係者の皆様、ボランティアの皆様には深く感謝申し上げます。  
会長代行を拝命してからの1年、ドナー登録方法にスワブによる検体採取が試験的に取り入れられるなど環境の変化がありました。全国協議会も大きく変

わったと実感しています。  
例えば昨年4月に佐藤きち子基金の助成申請の要件を緩和しました。血液難病に苦しむ患者さんとそのご家族を支援することは、全国協議会にとっては、大きな使命です。昨年は、その原点に立ち戻り、活動に取り組んだ1年だったのではないかと思います。  
また、公益財団法人日本骨髄バンクとの連携も更に強化されました。平日対応できる説明員の偏在により大学での登録会ができていなかったエリアで日本骨髄バンクと全国協議会が協力して問題の解決を図り、若年ドナー登録を促進しまし

た。また、ドナー助成制度、ドナー休暇制度・公欠制度の導入やその他多くの取り組みも併せて進めてまいりました。  
そして新しく迎えた2025年。今年の6月には全国協議会は設立35周年を迎えます。この節目の年に、患者さん支援のための活動が更に大きな飛躍を遂げることと確信しています。  
最後になりますが、この1年が関係者の皆様、特に現場にて日々御活躍いただいている皆様にとって更なる飛躍の年となることを、又、皆様の御健康と御多幸を祈念して、新年の挨拶に代えさせていただきます。



骨髄・さい帯血バンク・  
献血推進議員連盟会長  
衆議院議員  
笹川 博義

皆様あけましておめでとうございます。  
血液難病の患者さん支援のため、骨髄バンク事業啓発のため、また、ドナー登録活動に日々ご尽力いただいておりますボランティアの皆様に敬意を表すると共に、賜りましたご指導ご鞭撻に深く感謝申し上げます。  
近年、移植の現場では移植ソースの多様化、ドナー登録の現場ではスワブによ

る検査の試験導入が進むなど、骨髄バンク事業を取り巻く環境が大きく様変わりしています。一方、若年層に対するドナー登録促進、ドナーが提供しやすい環境整備など、血液難病患者支援に関する課題は、まだまだ取り残されています。そのような中で骨髄バンク事業の更なる発展のためには全国骨髄バンク推進連絡協議会と日本骨髄バンクの協働は益々重要になってきています。骨髄バンク事業の健全な発展を目指す骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟としては、両機関が従来にも増して緊密に連携していくことを期待しています。  
また、患者さんを取り巻く環境に関し

ては、物価高騰が続く中、闘病の困難に加え、経済的負担が患者さんにとって大きな試練となっています。患者負担金、ドナーの差額ベッド代、造血幹細胞運搬費用など患者さんを苦しめる諸問題に向き合い、解決に向けて議連として取り組んで参ります。  
我々関係者のみならず、社会全体でこれらの問題に取り組み、患者さんとそのご家族が希望をもって闘病に立ち向かえる社会の実現を目指して共に頑張ってくださいませ。  
血液難病に苦しむ患者さん・ご家族がいなくなることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。

## （ 全国の骨髄バンクボランティア団体の皆様へ 全国骨髄バンク推進連絡協議会 加盟のご案内 ）

私ども認定特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会（全国協議会）は血液難病の患者さん支援活動を共に展開する仲間を募集しています。全国協議会にまだ加盟されていない団体の皆様はぜひ加盟をご検討ください。  
◎活動概要  
日本骨髄バンクが医療の領域で患者とドナーを結びつける事業をしているのに対し、全国協議会は草の根レベルで患者支援活動を行っています。皆さまが行っているドナー登録促進活動の支援をはじめ、正しい知識を伝える活動（白血病フリーダイヤル、ハンドブック『白血病と言われたら』、医療講演会・相談会）、闘病を経済的に支援する基金の運営など、直接患者さんに寄り添う活動に取り組んでいます。

◎加盟のお誘い  
全国の仲間と連携することで、単体ではなかなか難しい活動にもご参加いただけます。また、患者支援活動や啓発活動などの事業を全国協議会と共催することで、その費用の一部を全国協議会が負担する事業共催制度もあります。全国協議会は加盟団体との連携、関係機関（厚生労働省、日本骨髄バンク、日本赤十字社など）との連携を大切にしています。  
◎参加資格・会費等  
骨髄バンクボランティア、患者支援活動を行う団体であれば加盟できます。  
年会費は1万2,000円です。詳細や入会申込書の請求は事務局までお問い合わせください。  
(☎ 03-5823-6360)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

### 骨髄バンク NOW

（MONTHLY JMDP(12月13日発行)より抜粋）

#### ■日本骨髄バンクの現状(2024年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,878	3,478	563,116	985,430
患者登録者数	219	207	1,711	70,190
採取数	骨髄	66	64	26,824
	末梢血幹細胞	31	23	2,355
	合計	97	87	29,179

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

#### ■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／885人、献血併行型集団登録会／2,450人、集団登録会／61人、その他／82人

#### ■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,967人／20代 97,040人／30代 137,469人  
40代 212,006人／50代 111,634人

#### ■11月の20歳未満の登録者470人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

# 新年のご挨拶



公益財団法人  
日本骨髄バンク  
理事長

岡本 真一郎

新年あけましておめでとうございます。  
骨髄バンクの設立から33年を経て、  
ドナー登録者数は56万人を超え、移植  
数は累計で2万9千例となりました。こ  
れらは貴協議会をはじめ、関係各方面  
の方々の長年にわたるご支援の賜物と、こ  
の場をお借りして深く感謝申し上げます。  
2024年にはオンライン上からのスワ

プ申し込みによる HLA 検査の試験的導  
入を行い、本格導入に至る上での様々な  
課題について確認・検討しました。申込  
者の過半数がWEBサイトやSNS等を  
通じ短期間で集まるなど、登録者の募集  
にもオンライン発信が有効であることを  
あらためて認識しています。今後も関係  
機関のご協力を得ながら、若年層の登録  
に親和性のあるオンラインスワブ登録の  
2026年導入を目指して参ります。

また、学域登録会の積極的な開催や  
WEB広告による若年ドナー登録者増加  
を図り、「骨髄バンクニュース」の刷新  
など登録ドナーへのリテンション対策も

強化しながら、2025年も積極的な情報  
発信に取り組みます。

一方で、移植が必要な患者さんの約4  
割程度はその希望を叶えられておらず、  
適合ドナーの提供応諾率の停滞は継続し  
た課題となっております。末梢血幹細胞  
採取における持続型 G-CSF の使用によ  
る入院日数短縮や、ドナー休暇・公休制  
度の導入促進により応諾率向上を目指し  
て参る所存ですので、引き続きご支援く  
ださいようお願い申し上げます。

末筆ながら、貴会および会員皆様の  
益々のご発展ご健勝をお祈り申し上げ、  
新年のご挨拶とさせていただきます。



日本赤十字社  
血液事業本部長  
紀野 修一

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
日本赤十字社は「移植に用いる造血幹  
細胞の適切な提供の推進に関する法律」  
の定めにより、造血幹細胞提供支援機関  
に指定されています。支援活動としてよく  
知られているのは、全国献血会場での骨  
髄ドナー登録希望者の受け入れ、骨髄バ  
ンク・臍帯血バンク共通の広報誌  
「BANK! BANK!」を用いた若年層へ

の普及啓発があげられます。

また、あまり知られていない活動とし  
て、ドナー登録をしていただいた方々が  
適合ドナーとなられ得た際にその尊い意  
志を發揮できるように、住所不明ドナー  
の方々の献血者登録情報との連携による  
情報更新や、公益財団法人日本骨髄バン  
クのショートメッセージサービスによる  
リマインド送信への協力を行っていま  
す。このような活動で、適合ドナーと  
なった場合に円滑なコーディネートが進  
み、一人でも多くの患者さんが迅速に適  
合ドナーを得られるような体制が整えら  
れています。

さらに、ドナー登録の方式を現行の紙

による申込から Web を用いた申込方法  
への移行を図り、HLA 検査用検体採取  
を採血からスワブを用いた方法に変更す  
るなど、関係団体の皆様方と協力しなが  
ら新たな取り組みも進めています。

日本赤十字社では、引き続き、造血幹細胞  
提供支援機関として、一人でも多くの患  
者さんが適切な移植医療をうけられるよ  
う、貴協議会をはじめ、関係団体の皆様と  
連携し、事業を推進して参ります。今後と  
もご協力を賜りますようよろしくお願い申  
し上げます。

最後に、貴協議会の益々のご発展と、  
皆様のご活躍を祈念いたします。



全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
理事長  
梅田 正造

新年明けましておめでとうございます。  
2024年は活動方針の柱として「全国  
各地の会員団体の皆様の意向を汲んで、  
各地の活動の支援に力を注ぐ」ことを掲  
げました。「2023年度活動報告」を新書  
式とし、全8ページカラーで図、表、写  
真を多用して分かりやすくまとめ会員、  
関係者に配布しました。全国協議会の活  
動状況が会員の皆様にご理解いただけ  
たと思います。  
また各地に直接伺い意見交換すること  
に努力しました。1月早々能登半島地震  
が発生しましたが、会員団体には幸いな  
ことに大きな被害はありませんでした。2  
月は故仲田順和会長が座主を務めていた  
醍醐寺を訪ね、ご指導いただいたお礼を  
お伝えしました。その後関西協会事務局  
に行き意見交換しました。3月は埼玉県  
で開催された関東・甲信越地区ブロック

セミナーに参加し、埼玉、東京、神奈川、  
千葉、群馬、長野の会の皆様と活発な意  
見を交わしました。11月には宮城県に赴  
き、石巻の会小野喜代人代表が企画した  
イオンモール石巻での「いのちの輝き展」  
の開会式で挨拶をし、活動を支援しまし  
た。

4月に「骨髄・さい帯血バンク・献血推  
進議員連盟」の総会が開催され、会長の  
野田聖子衆議院議員が退任され、笹川博  
義衆議院議員が新会長に就任されました。  
6月には日本骨髄バンクの理事会が開催さ  
れ小寺良尚理事長が退任され、岡本真一  
郎理事長が就任されました。就任後速や  
かに新会長、新理事長を訪ね就任祝いを  
述べるとともに全国協議会への支援をお  
願いしました。また日本骨髄バンクとは初  
めて3月から広報渉外部長、担当者と協  
議会の正副理事長、事務局、近隣団体が  
定期的に顔を突き合わせてざっくばらん  
な意見交換をするようになりました。

2025年は、2024年の上記活動の更な  
る進展に務めて活動をしてまいりますの  
で、皆様方のご支援をよろしく願いま  
します。

## クラウドファンディング 実施のご案内

1月20日(月)から、「佐藤さち子基金」  
の資金等を確保するためのクラウドファン  
ディングを実施します。今回は、実際  
に佐藤さち子基金の助成を受けられた患  
児のお母さまのお話をプロジェクトペ  
ージに掲載しました。幼いお子さんは、さい  
帯血移植を受け、今は順調に快方に向  
かっていますが、発病して移植を受け  
退院するまでのご苦勞は、やはり大変な  
ものでした。経済的にも困られている中  
で基金のことで知り、助成を受けられま  
した。支援者の皆さまには大変感謝され  
ています。詳しい内容については、以下  
の二次元コードからサイトに入り、ご覧  
ください。佐藤さち子基金がこれからも  
継続できるよう、クラウドファンディ  
ングの情報を拡散いただき  
たく、ご協力のほどお願い  
いたします。



1月20日(月)スタート

## 日本骨髄バンク 2024 年度地区普及広報委員・説明員研修会を受講して

標記研修会を受講しました。スワブによるオンラインドナー登録についての説明が多かったことが特徴的で、興味津々で研修を受けました。

冒頭、岡本真一郎理事長からの挨拶で、若年層ドナー登録推進についての説明があり、2023年度の説明員による登録者の75%が39歳以下だったことが報告されました。

広報渉外部からは以下の報告がありました。

「スワブによるオンラインドナー登録の2024年度トライアルでは、公式ホームページやチャットボットへのリンク貼付、2次元コード付チラシの配

布、SNS等で登録希望者を募った。その結果、426件のスワブキットの申し込みがあり、332件の検体提出があった。提出された検体の中には、DNA量不足やカビの発生等、再度検体採取が必要なものが14.5%発生した。WebやSNSからの申し込みが多く、主流はオンライン経由との確認が取れた。2026年度4月からスワブ検査オンライン登録の本格導入を目指す。

今後は、採血を伴う現在の方法に加え、同登録の導入を行うことで39歳以下の新規ドナー登録者毎年3万人という目標を確実に達成したい。献血併行型登録会では今後も採血式を維持するが、

ドナー登録のみの場合は同登録を案内することを検討中。スワブとオンラインドナー登録の導入により、骨髄バンクの普及啓発の役割が相対的に増大する。

群馬県の説明員の方からは「大学の登録会では1週間ほど前に事前説明会を開き、当日スムーズに登録できるようにしている。説明員の交流により、情報共有・スキルアップ・チームワークを構築している」との報告がありました。

スワブとオンラインドナー登録は、現在の骨髄バンク説明員活動と異なる点が多そうですが、若年の新規ドナー登録者が増えるよう、検討を行っていただきたいと思いました。

(なら骨髄バンクの会 小笹晃子)

## スポーツを通じた骨髄バンク支援



富山県では、毎年富山マラソンのエントリー受付EXPO会場で骨髄バンク登録会を開催しています。今年もドナー登録の呼びかけと共に「富山マラ

ソン in 骨髄バンクランナーズ」の活動を行いました。2024年11月2日(土)のEXPOでの登録会では、新たに30名の方にドナー登録をしていただきました。

また、11月3日(日)の大会当日には「骨髄バンクにご協力ください」のメッセージが書かれた黄色いタスキを身に着けた骨髄バンクランナーズには32名の方が参加し、ゴールまで走り抜けました。タスキを見た多くの方から応援の声をいただき、ランナーズの活動を通じて骨髄バンクへの関心が

さらに広がったと感じています。

参加されたランナーからは、「タスキを見て声をかけてくださる方がいて、少しでも力になれたのなら嬉しいです。次回もぜひ協力したい」との温かいメッセージをいただきました。

富山の会では、県内プロスポーツ団体とも連携し、「スポーツを通じた骨髄バンク支援」を目標に掲げています。マラソンに限らず、さまざまなスポーツを通じて普及啓発を続け、患者さんやそのご家族と共に走り続ける活動を広げていきたいと考えています。

(富山県骨髄バンクを広める会 堂田千里)

## 骨髄バンクと私

2024年11月17日(日)、第12回神戸マラソンに骨髄バンク応援ランナーとして出場をしたことを報告します。私は22歳の時から黄色タスキを装着して関西圏を中心に数多くのマラソン大会に出場を続けてきました。2021年27歳の時、コロナ禍全盛期に骨髄バンクを介してドナー提供をしたアスリートです。

今回の神戸マラソンは順風満帆なレースではありませんでした。私自身、仕事多忙等により体調不良、体力低下を経験。春先は走れず、悔しい日々を過ごしました。けれど夢を描き続け、今できることを懸命に必死で積

み重ね、なんとか秋には試合復帰を果たすことができました。

フルマラソンは42.195km、決して短い距離ではありません。走れること自体、ありがたいことだと実感。走れる喜びと感謝の想いがあふれました。今回の神戸マラソンは11月なのに気温20℃、湿度80%を超える暑さ。25km過ぎに腹筋がつり、フラフラになり、逃げたい、やめたいと思う気持ちが出てしまうほどキツイ展開でしたが「骨髄バンク、頑張れー！」各所から届くたくさんの声援が心奥深くまで聴こえました。絶対に最後の最後まで「諦めない」今できるすべてを尽くそ



うと、耐えに耐え、粘りに粘れた試合になりました。結果は2時間57分19秒で完走。次に繋げる体験にします。骨髄バンクについて、より多くの人に興味関心を持っていただくきっかけを作れるよう、私もがんばります。

(ランニングチーム神戸 A C 代表 松井一矢)

各地のたより 

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

千葉

### 骨髄バンクチャリティ「コンサートと落語会」を開催

千葉骨髄バンク推進連絡会では、2014年に成田山新勝寺様、成田市様のご協力のもと成田山信徒会館で「骨髄バンクチャリティコンサート」を開始しました。翌2015年からは落語も併せて「コンサートと落語会」として実施し、以降毎年継続しています。2017年から会場を成田市文化芸術センターに変更しました。2020年・2021年はコロナ禍の影響で中止を余儀なくされましたが、2024年は11月16日（土）に第9回を開催することができました。

当日は、小泉一成成田市長をはじめ140名以上の方々にご来場くださいま



した。まず桂右女助師匠らによる落語会では、軽妙な語り口に場内の皆さんの顔がほころびます。そして、コンサートは第1回よりご出演いただいている三戸素子さん、小澤洋介さん、それに高田匡隆さんによるピアノ三重奏です。ドヴォルザークの名曲など、今回も素晴らしい演奏が会場内の方々の心に深く染み渡りました。

「コンサートと落語会」では、これまでも公演の合間に骨髄移植体験者としての元患者さんとドナー体験者の方の対談が行われています。今年も右女助師匠の司会で、12歳で急性リンパ性白血病を発症し骨髄移植を受けた堀



(左から桂右女助師匠、堀ともこさん、堀彩華さん) 彩華さんと、そのお母様でドナー体験者でもある映画プロデューサーの堀ともこさんが対談しました。来場者のアンケートでも「お母さんの愛情がじかに伝わってきた」「素晴らしい話なので家族や孫に話したい」など内容に感銘を受けたという声がたくさん寄せられました。これからもぜひこの活動を継続し、骨髄バンクの必要性を多くの方に届けられれば良いと考えています。

(千葉骨髄バンク推進連絡会  
「コンサートと落語会」  
実行委員長 小泉治彦)

埼玉

### 第31回チャリティーコンサート＝埼玉連絡会

埼玉連絡会は、2024年11月23日（土）に日本バプテスト浦和キリスト教会で第31回チャリティーコンサート「ピアノ三重奏の調べ」を開催しました。

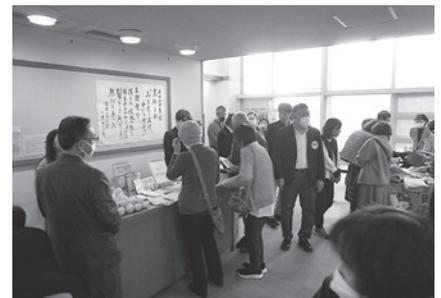
演奏内容は近隣都県と同内容ですので、演奏以外の当会の取り組み内容を3点紹介したいと思います。

まず、コンサートの前半部分が終わった段階で、骨髄バンクミニシンポジウムを行います。2023年は、初代ユースアンバサダーの石井希さんのお話をお聞きしましたが、今回は「我が子の命の恩人へ送る10年目の手紙『拝啓 ドナー様、』」の著者の干川三重さんをお招きし、息子さんの発病と闘病生活などについてインタビュー形式でお話を伺いました。大変感動的で、有意義な内容でした。

2つ目は、会場ロビーで行う販売活動です。会員手作りの小物類や会員が親しくしている生産者の方から提供された農産物や花、秩父産のユズは常連ですが、今回は演奏者のCD、「拝啓 ドナー様」、「盲導犬との絆、静かな感動（全日本盲導犬使用者の会著）」の書籍を販売し、大変好評でした。



3つ目は、コンサートのフィナーレに「翼をください」の合唱を全員で行うことです。三戸素子さん、高田匡隆さん、小澤洋介さんの演奏と手話サークルの皆さんの振り付けをバックに歌う「翼をください」は、参加者の心を



一つにし、コンサートの最後を飾る感動的な一幕です。

来年は、更なる工夫をしたいと話しています。

(埼玉骨髄バンク推進連絡会  
会長 笠原慶一)

 **心からのご寄付に感謝申し上げます** ●11月21日～12月20日(敬称略)  
当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

<p>●一般</p> <p>千葉ゆきのライオンズクラブ 現金 50,000円</p> <p>株式会社チエノワ情報システムズ 現金 10,000円</p> <p>早瀬 昭一郎 現金 12,000円</p> <p>大橋 洋典 現金 10,000円</p> <p>三瓶 和義 現金 986円</p> <p>匿名 現金 30,000円</p> <p>匿名 現金 1,000円</p>	<p>●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金</p> <p>公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 11,154円</p> <p>本田 真奈美 現金 5,000円</p> <p>●募金箱</p> <p>株式会社 クスリのアオキ 現金 1,384,680円</p> <p>株式会社 ナルックス 現金 31,779円</p> <p>株式会社 フクヤ 現金 12,768円</p>	<p>株式会社 マルト商事 現金 60,598円</p> <p>株式会社コスモトレードアンドサービス 現金 3,270円</p> <p>●つながる募金 現金 13,300円</p> <p>●キモチと。 現金 1,918円</p> <p>●マンスリーサポート 現金 46,000円</p>
---	---	---

**活動資金の支援をお願いします** 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754  
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会  
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。